

歴史散歩

れきしさんぽ No.37

高良山の文化財

高良山、鎮座する高良大社ほど筑後の山、神社のなかで記録が残されているところはありません。奈良時代に作られた『風土記』『日本書紀』に既にその名が見られます。この山は古代から歴史の舞台でした。高良大社の創建も履中天皇元年と伝え、この山の中腹を廻る古代山城である神籠石の築造もこの山が重要な戦略地点であることを示しています。

この山は古代から宗教の山であり奈良時代から神仏習合の山として、中世には寺社勢力として大きな力を振るった歴史をもちます。南北朝期に懐良親王が高良山に陣を構えたこと、戦国末にはこの山が豊後の大友氏の拠点であったこと、豊臣秀吉の九州攻めに際しては山麓の吉見嶽城で筑後・肥前の諸将と謁見したなど、各時代に大きな激動に見舞われています。

江戸時代は有馬家の厚い保護を受けており、天台宗の僧侶である座主、神官である大祝・大宮司によって祭祀が行われ、筑後国一宮として崇敬されてきました。しかし、明治初期の神仏分離令によって山内にあった寺坊が破却され、貴重な文物が失われてしまいましたが、現在もその歴史を語る多くの文化財が残されています。



高良大社本殿・幣殿・拝殿

こうらたいしや ほんでん へいでん はいでん おおとりい
高良大社本殿・幣殿・拝殿、大鳥居

重要文化財 建造物 昭和47年5月15日国指定

いつも参拝で賑わう高良大社の現社殿は久留米藩3代藩主、有馬頼利の寄進によって明暦2年（1656）から寛文元年（1661）にかけて造営されたものです。

神殿の形式は日光東照宮に代表される本殿と拝殿の間に幣殿が入る権現造です。拝殿・幣殿の天井絵は宝暦5年（1755）に御用絵師の三谷仙雪が描いたものです。



大鳥居

大鳥居は高良山の麓の参道入り口にあるもので、承応4年（1655）に2代藩主有馬忠頼が寄進したものです。石材は領民によって田主丸石垣から運ばれてきたものです。

こうらさん みたらいぼし
高良山御手洗橋

県指定有形文化財 建造物 平成14年4月5日指定

高良山の旧参道にある池にかかる橋です。高良の神がこの池で口をそそぎ、手を洗われた伝説から、この池は御手洗池とも、また放生池と呼ばれます。

中世末に描かれた高良山縁起にも木橋がみえますが、具体的に橋の様子が分かるのは江戸中期からです。安永元年（1772）の放生池御手洗橋の完成記事があります。この時期は木造です。現在のように石橋となったのは享和3年（1803）です。桁行5間、梁行2間の規模を持ち、袖高欄がつく桁橋です。



高良山御手洗橋

擬宝珠柱には安永2年銘の銅製金物が付けられていますが、これは享和3年の再建の際に橋の歴史を伝えるため利用されたものです。

けんほんちやくしよくこうらたいしやえんぎ
絹本著色高良大社縁起 県指定有形文化財 絵画 昭和50年8月14日指定

縁起絵と呼ばれるもので、この種の縁起では最も大きい部類に入り、縁起図と山内図の2幅からなります。制作時期は中世末とされています。

縁起図は237cm×207cm。神功皇后の「朝鮮半島出兵の物語」をその準備から高良神の活躍による勝利、宇美宮での皇子誕生などを、下半部には激しい攻防戦を描いています。

山内図は328.3cm×212.5cm。中世末の高良山の全景を画面いっぱい描いています。麓の門前町府中の賑わいや、そこから蛇行する参道には参詣者や幾多の堂舎を描き、上部には回廊に囲まれた高良社の社殿を描いており、中世末の高良山と門前町の繁栄を良く伝えています。また、国指定史跡となっている「高良山神籠石」も描かれており、高良山の歴史を伝える貴重な資料です。



絹本著色高良大社縁起（山内図）

※国指定史跡高良山神籠石については「歴史散歩No. 20」参照

しほん ぼくしょへいけものがたり
紙本墨書平家物語

重要文化財 書跡 明治44年4月17日国指定

平家物語は鎌倉時代に成立した平家一門の栄華と没落を描いた叙事詩的な軍記物語です。当初は3巻本だったようですが、13世紀中頃に6巻本、更に12巻本へ成長し、14世紀初めに如一が灌頂巻を付した平家物語ができました。この如一の平家を大成して一方流を確立したのが覚一です。この覚一が応安4年（1371）に筆録させ弟子定一に譲ったものが「覚一本平家物語」です。現在写本が6本ありますが、高良大社本は貴重な1本として注目されています。寛政9年（1797）に高良山の僧寂春が御神庫に奉納したものです。



紙本墨書平家物語

高良大社所蔵文書

県指定有形文化財 書跡 昭和50年8月14日指定

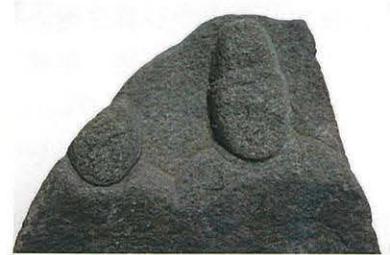
高良大社が所蔵する文書群で、斉衡・天慶文書1巻、社家文書（大祝鏡山家文書・大宮司宗崎家文書・座主家文書・古文書再写）6巻、文禄文書1冊、座主尊能文書1巻、高良玉垂宮神秘書（含紙背文書）・玉垂宮大祭祀2巻からなります。いずれも、筑後の古代・中世の研究に欠かせない重要な文書です。



高良玉垂宮神秘書

府中の石造市恵比須像 市指定有形民俗文化財 平成10年7月29日指定

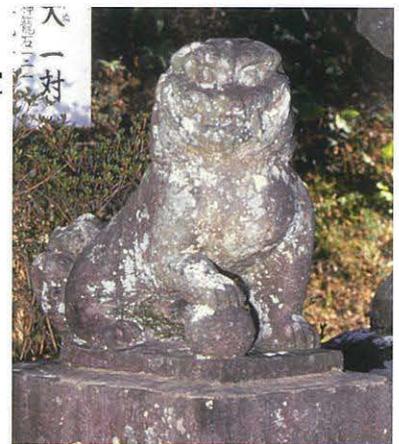
中世の筑後地方には一般的に知られている右手に釣竿、左手に鯛を持つ恵比須像ではなく、男女一對の夫婦恵比須像がみられます。この像は市神として祭られていたようです。府中（御井町）には鎌倉時代から市が開かれており、北筑後各地の親市でした。各地の市には高良社の大祝鏡山家によって市神である市恵比寿が勧請されました。この像は鏡山屋敷内の鏡山神社で発見されたものであり、府中の市で祭られ、各地の市恵比須の根本となった可能性が高いものです。現在は高良大社境内に祀られています。



府中の石造市恵比須像

高樹神社の石造狛犬 市指定有形民俗文化財 昭和59年6月29日指定

高樹神社は「高牟礼権現」とも呼ばれ、古来高良山の地主神と言われ、元慶2年（877）に朝廷から従五位の位を授与されています。寛文10年（1670）に再建され、宝暦2年（1752）に現在地に移されています。社頭にある石造狛犬は狛犬としては小型ですが、阿形台石に享保9年（1724）の銘があり、筑後地方では最古のものです。石工銘はありませんが、山北石工の手になるもので、山北型狛犬の祖形として注目されます。



高樹神社の石造狛犬（吡形）

磨崖種子三尊（岩不動）市指定史跡 昭和62年2月21日指定

磨崖種子三尊は通称岩不動と呼ばれ、高良山愛宕神社南側の岩露頭に、地藏菩薩を中心に右に不動明王、左に毘沙門天の三尊の種子（仏をあらわす梵字）を刻んだものです。愛宕神社の祭神の本地仏が地藏菩薩であり、また、境内には文字を彫る石があり、不動像、毘沙門像、地藏像とあったという記録から、この三尊種子は愛宕神社の信仰と深い関係があるようです。この種子の筆跡が高良山50代座主寂源僧正のものという記述もあり、これによれば17世紀末頃のものとなります。



磨崖種子三尊

高良山のモウソウキンメイチク林

国指定天然記念物 昭和49年11月25日指定

モウソウキンメイチクは、イネ科に属し、中国原産のモウソウチクの変異種で、漢字では「孟宗金明竹」と書きます。

昔から珍重され、江戸時代、この竹が見つかるのと、かわら版で騒がれたといえます。この金明竹は、表皮3層が変化して、黄金色の中に緑色の縦縞が節間に交互に現れたものです。また竹の皮には、黒い斑点があり、葉には葉脈の中に白線が見られるものもあります。モウソウキンメイチクの発生は、極めて稀で、非常に貴重な存在です。

高良大社の樟樹

県指定天然記念物 昭和39年5月7日指定

高良大社では、御樋代(ご神体の容器)などが樟くすで作られていたため、樟を神聖視し、社殿はもとより日常の用具に至るまで、一切樟材を使用してはならない定めがあったといわれています。この樟樹は高良山中興の祖、座主寂源が植樹したと伝えられ、正参道の樟樹で大社の御神木として永く崇められてきました。指定された樹木は2本あり、1号樹の根回りは、相当の根上りを見せており、全体として樹形は美しく、根元から約2mのところまで双幹となっています。

歴史の深い高良大社の境内に相応しい雄大な樹木です。

高良大社のツツジ群生地

市指定天然記念物 平成13年3月26日指定

久留米ツツジは江戸時代末、久留米藩士坂本元蔵さかもともとぞう(1785-1854)がキリシマツツジを原種として苦心の末、新種の育成に成功したことでよく知られています。坂本は高良山と梅林寺のキリシマツツジから種子を採取しましたが、現在梅林寺境内にはツツジ古木は見当たらず、ツツジ古木群生は高良山に残るのみとなっています。

ツツジ群生地は高良大社社殿の背後から南側の崖斜面にあり、樹齢200年を越えると推定され、久留米ツツジの原木の可能性が高いものです。高良山では、寛政4年(1792)に千四百年御神忌大祭かんせいが盛大に行われており、この大祭にあわせて境内の整備が行われた時に、植え込まれたものと推測されています。

味水御井神社のクロガネモチ

県指定天然記念物 平成20年3月31日指定

このクロガネモチは、雄株で、樹高19.71m、幹周り4.06m、胸高直径1.29mを測り、県内最大級の規模を誇る巨樹です。他県指定のクロガネモチと比較しても規模が大きいことから、全国的にも最大級の部類に入ると考えられます。また、樹齢についての断定は困難ですが、これまでの計測事例を当てはめると、約500年生程度と推定されます。

本樹の位置する味水御井神社は、旧国幣大社で筑後一宮であった高良大社の末社であり、地元では「七社権現」の呼び名で親しまれています。現在も高良大社の川渡祭では禊みそぎの場となるなど、地域に密着した神社です。



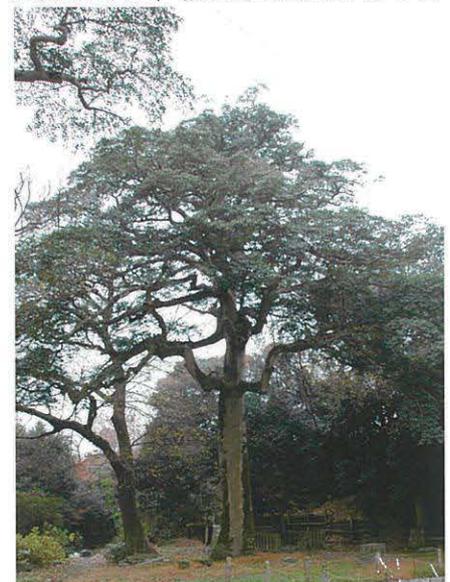
高良山のモウソウキンメイチク林



高良大社の樟樹



高良大社のツツジ群生地



味水御井神社のクロガネモチ